

国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国文学概論	日本近代文芸の諸問題	2	佐藤 伸宏	3	金	3	1
国文学概論	日本古典文芸の世界	2	佐倉 由泰	4	金	3	2
国文学基礎講読	『徒然草』を読む	2	佐倉 由泰	3	金	2	3
国文学基礎講読	『成尋阿闍梨母集』を読む	2	横溝 博	4	金	2	4
国文学各論	『住吉物語』の展開と享受	2	横溝 博	5	月	2	5
国文学各論	『我身にたどる姫君』を読む	2	横溝 博	6	月	2	6
国文学各論	〈接続する〉文芸学	2	中村 三春	集中(5)			7
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	火	2	8
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	火	2	9
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	5	月	5	10
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	6	月	5	12
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	5	水	2	14
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	6	水	2	15
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	5	木	2	16
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	6	木	2	17

科目名：国文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB35301, **科目ナンバリング：**LHM-LIT201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近代文芸の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Literature (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

本講義では、日本の近代文芸について、とくに明治期の文芸作品を中心的に取り上げて具体的な分析を行うとともに、作品内に折り込まれている多様なトピックスを取り出すことをとおして、日本近代文芸の特質、その固有の問題等について講述する。

毎回の授業の終わりに、講義内容に関する質問や意見を提出してもらい、その回答や補足の説明を行いながら、授業を進めていく。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本の近代文芸について、背景としての時代状況を視野に入れながら具体的な作品の分析を行うことをとおして、その多様な特質および近代文学史に関する理解を深める。

(2) 文芸作品の読解の基本的な方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質問への応答、補足説明等によって、下記の予定通りに進まないことがあり得る】

1. 日本近代文芸の成立
2. 坪内逍遙『小説神髓』における近代小説の理念
3. 二葉亭四迷『浮雲』の諸問題
4. 小説の近代化をめぐる
5. 樋口一葉「十三夜」を読む
6. 立身出世のイデオロギーと文学
7. 「女大学」と日本近代文学
8. 下層社会と日本近代文学
9. 日本近代文学における女性
10. 田山花袋「少女病」を読む
11. 日本近代文学における〈時間〉
12. 日本近代文学におけるロマン主義と自然主義
13. 日本近代文学における〈山の手〉〈下町〉というトポス
14. 近代日本における外国文学の受容に関する諸問題
15. まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポート・出席等（各 50%）を一応の目安とするが、総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品について、事前に熟読、精読しておく。

9. その他：

本講義は第 4 セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB45301, **科目ナンバリング：**LHM-LIT201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本古典文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：

日本の古典文芸について、具体的な作品、表現を考察し、それぞれの特徴を明らかにするとともに、その文学史上の意味、文化史上の意味を捉えて行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の古典文芸について、具体的な作品の分析を通して、その多様な特質と史的展開に関する理解を深める。
- (2) 文芸作品の読解の基礎的な方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 はじめに—『おくのほそ道』と平安時代の和歌—
- 2 歌枕の形成
- 3 数寄ということ
- 4 白河の関をめぐる和歌、物語
- 5 安積山、黒塚をめぐる和歌、物語
- 6 信夫をめぐる和歌、物語
- 7 岩沼、名取をめぐる和歌、物語
- 8 宮城野、多賀城をめぐる和歌、物語
- 9 塩釜・松島をめぐる和歌・物語
- 10 平泉をめぐる和歌・物語
- 11 まとめ

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート〔50%〕と、小レポート〔50%〕をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義は、第3セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『徒然草』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on “Essays in Idleness (徒然草 Tsurezuregusa)”

3. 授業の目的と概要：

『徒然草』の表現を考察する。

文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということを、調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。

4. 学習の到達目標：

- (1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
- (2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
- (3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
- (4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかにたいせつかということを考察の実践を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める。

- 1 『徒然草』を読むにあたって（第1回～第2回）
- 2 変体仮名を読むために（第3回）
- 3 考察発表とそれにもとづく意見交換（第4回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫）

かな研究会編『実用変体がな』（新典社）

参考書：小川剛生『兼好法師』（中公新書）をはじめ、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。

9. その他：

科目名：国文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：横溝 博 (准教授)

講義コード：LB45202, **科目ナンバリング：**LHM-LIT212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『成尋阿闍梨母集』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read "Jojin Ajari haha no shu" (A collection of poems by mother of Jojin Ajari)

3. 授業の目的と概要：

『成尋阿闍梨母集』について輪読と発表を繰り返し行う中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『成尋阿闍梨母集』を素材に、

(1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。

(2) 和歌や日記をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

以上を学習の到達目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 日記文学及び『成尋阿闍梨母集』についての講義。変体仮名の読解練習。
3. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い (出席・質疑応答) [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：平林文雄編著『校本成尋阿闍梨母集』(笠間書院、1977 年。授業では Kindle 版、オンデマンド版を用いる)。『実用変体がな』(新典社)。

参考書：変体仮名の読解練習に用いる影印についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。

8. 授業時間外学習：

事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う (遊ぶ) など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

9. その他：

『成尋阿闍梨母集』は、子を思う母の心情が纏綿と綴られた、哀切極まりない作品です。現代でも十分に読む価値があります。この作品の全体を俯瞰するために、限られた回数でもあることから、数場面をピックアップして読み進めます。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『住吉物語』の展開と享受

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Sumiyoshi monogatari (The Tale of Sumiyoshi)"

3. 授業の目的と概要：

『住吉物語』を読んで『住吉物語』の展開と享受について考える。日本古典文学の代表的な作品であり、継子物語の典型でもある『住吉物語』は、成立以後、様々に改作され、命脈を保ってきたきわめて得意な作品である。おそらくその本文のヴァリエーションは、日本古典文学に比類ないほど、多種多様である。具体的には、主として流布本によって読み進めるが、同時に多種多様な伝本、奈良絵本・絵巻などの絵画化されたテキストをも参照しつつ、文芸作品としての『住吉物語』の特質について考察する。また、『源氏物語』をはじめとする物語への影響をも視野に入れながら、日本文学史における『住吉物語』の文化的意義についても考えたい。授業では『住吉物語』テキストの読解を試みるだけではなく、『住吉物語』という作品が何故に全時代にわたってかくも影響力を持ち得たのか、『住吉物語』をめぐる日本文化の解明をも目指す。

4. 学習の到達目標：

『住吉物語』を読み解き、その物語世界に触れることで、(1)古物語の表現の様式と特質について学び、(2)物語文学の改作および享受の問題について広く理解することを目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『住吉物語』の成立と展開。テキストおよび参考文献の紹介。
2. 『住吉物語』を読む (1)
3. 『住吉物語』を読む (2)
4. 『住吉物語』を読む (3)
5. 『住吉物語』を読む (4)
6. 『住吉物語』を読む (5)
7. 『住吉物語』を読む (6)
8. 『住吉物語』を読む (7)
9. 『住吉物語』を読む (8)
10. 『住吉物語』を読む (9)
11. 『住吉物語』を読む (10)
12. 『住吉物語』を読む (11)
13. 『住吉物語』を読む (12)
14. 『住吉物語』を読む (13)
15. 『住吉物語』を読む (14) まとめ

6. 成績評価方法：

レポートの内容 [50%]、授業への出席 [50%]。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

テキストとして吉海直人編『住吉物語』(和泉書院、1998 年)を用いるので購入すること。その他、参考文献等は随時紹介する。以下は主要なものである(基本的にすべてのテキストに目配りする)。

〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第四巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1991 年)

〔訳注〕中世王朝物語全集『雲ににごる 住吉物語』(室城秀之・桑原博史校注訳、笠間書院、1995 年)

新日本古典文学大系『落窪物語 住吉物語』(藤井貞和・稲賀敬二校注、岩波書店、オンデマンド版、2017 年)

新編日本古典文学全集『住吉物語 とりかへばや物語』(三角洋一・石埜敬子校訂・訳注、小学館、2002 年)

8. 授業時間外学習：

既に配布された資料であっても毎時間用意すること。『住吉物語』以外の継子物語についても、学習の範囲を広げて取り組むこと。また『住吉物語絵巻』を始め、奈良絵本・絵巻など、絵画された『住吉物語』についても目配りすること。

9. その他：

『住吉物語』は『源氏物語』とは別な意味で、日本古典文学の代表的な作品です。これを知らずして、日本の古典文学は理解できないといってよいでしょう。

なお、この授業は国文学演習・特論の内容と有機的な連関がありますので、三年生はそのつもりで受講してください。但し、二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講可能です。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：横溝 博 (准教授)

講義コード：LB61201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『我身にたどる姫君』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read "Wagami-ni-Tadoru-Himegimi" in the Original

3. 授業の目的と概要：

「中世王朝物語」と呼ばれる平安末・鎌倉～室町時代にかけて作られた王朝物語の主要な作品の一つに、『我身にたどる姫君』がある。全八巻、帝にして7代・45年に及ぶ大作であり、後嵯峨院の文永八年(1271)には前半四巻は成立していたと思われる。『源氏物語』『狭衣物語』の批判的継承が顕著であり、「我身にたどる姫君」を主人公とする大河物語であるが、様々に登場しては移り変わっていく女性群像の中でも、賢明な女帝とその妹である好色の前斎宮は出色であり、女帝の没後、兜率天に登った女帝と近習女房らが歌会を開催するなど、奇想天外な場面設定も見どころの一つである。女性中心の色彩が強い上に、天上界と地上界を対比させた世界構想など、壮大なプロットが組み込まれていて、じつに興味深い作品である。この授業では、とくに第六巻を取り上げて精読する。おそらく平安から中世の数ある王朝物語の中でも、『我身にたどる姫君』の第六巻は、もっとも奇抜で、しかも愛すべきテキストである。斎宮を退いて京都に戻ってきた斎宮は、第五巻で理想的な御代を実現した女帝の妹であった——。女帝没後の世界を描く第七巻へのつながりの中で、第六巻は「並びの巻」という位置において、奇矯な前斎宮の物語を、女帝の裏物語とともに自在に語っていく。ここでは女帝はむしろ後背に退いている。禁忌の世界から都世界への帰還を果たした前斎宮は、男性女性構わず、好色の虜となって、周囲の女房たちを巻き込んでドタバタ劇を演じる。とくに前斎宮の同性愛の場面は、表現も相まって目を見張るものがある。かくも奇矯な前斎宮であるが、じつに愛くるしい人物であり、潔癖な姉女帝と好対照をなす。前斎宮の性愛が禁忌的にではなく、純真素朴に描かれている点が好ましく、他に例を見ない意欲作(異色作)である。授業では本テキストを読み味わい、楽しむことで、前斎宮の登場の意義と、『我身にたどる姫君』というテキストの目論見が何であるのか、その世界観の解明をも目指す。

4. 学習の到達目標：

『我身にたどる姫君』を主要なテキストとして読み解いていくことで、(1)『我身にたどる姫君』に固有の物語世界を明らかにし、(2)中世王朝物語への理解を深めること、を目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。『我身にたどる姫君』についての概説講義(物語史の展開。時代背景)。参考文献の紹介。
2. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(1)「前斎宮の登場、不埒な邸内」
3. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(2)「前斎宮と兵衛佐」
4. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(3)「前斎宮と女帝①」
5. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(4)「前斎宮の狂態と騒動」
6. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(5)「前斎宮と女帝②」
7. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(6)「前斎宮、悪夢を見る、呪詛騒ぎ」
8. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(7)「前斎宮、ご乱行」
9. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(8)「女帝の才覚」
10. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(9)「女帝と近習女房たち」
11. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(10)「女帝の漢籍の才」
12. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(11)「女帝、前斎宮を気遣う」
13. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(12)「女帝、死期迫り、近習女房たちに遺言」
14. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(13)「前斎宮の女房たちのその後」
15. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(14)「女帝と近習女房、兜率天で歌会を催す」

6. 成績評価方法：

レポートの内容[50%]、授業への出席[50%]。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

基本的には教場で配布するプリントによる。その他、参考文献等は随時紹介する。以下は主要なものである。

〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第七巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1994年)

〔注釈〕『我身にたどる姫君物語全註解』(徳満澄雄、有精堂、1980年)

〔全訳〕『我身にたどる姫君』七冊(今井源衛・春秋会、桜楓社、1983年)

『我が身にたどる姫君 上下』(大槻修・大槻福子・片岡利博 校訂・訳注、2009～2010年)

8. 授業時間外学習：

既に配布された資料であっても毎時間用意すること。巻六以外の内容的に関連する物語について、各自で内容を確認してあらすじを補っておくことが望ましい。

9. その他：

二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：中村 三春 (非常勤講師)

講義コード：LB98803, **科目ナンバリング：**LHM-LIT301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

〈接続する〉文芸学

2. Course Title (授業題目)：

Literary Theory for Connecting

3. 授業の目的と概要：

文芸テキストは係争する主体の葛藤の場であり、物語の語りは生成すると同時に媒介する。虚構・主体・語りの観点から〈接続する〉文芸学のあり方を概説し、原民喜から小川洋子に至る現代の文芸を例に採ってその諸様相を検証する。

4. 学習の到達目標：

現代文芸研究の方法論と、現代文芸の作品に関する基礎知識を習得し、授業内容について感想レポートを執筆するとともに、任意の文芸テキストについて水準の高い最終レポートを作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

・授業はプリントを配付し、パワーポイントのスライドを利用した講義形式で進める。

序説 〈接続する〉文芸学の理論 (第1回～第3回)

(虚構の理論と根元的虚構論—係争中の主体—接続と語りの理論)

本論

- 1 原民喜と表象の可能性と不可能性 「鎮魂歌」など (第4回～第5回)
- 2 森敦の〈わたし〉と小説の構造 『われ逝くものごとく』など (第6回～第7回)
- 3 谷川俊太郎と言葉の沈黙と構成 『六十二のソネット』『定義』など (第8回～第9回)
- 4 村上春樹と〈接続する〉物語 『1Q84』『騎士団長殺し』など (第10回～第12回)
- 5 小川洋子と監禁の終わるとき 『猫を抱いて象と泳ぐ』『琥珀のまたたき』など (第13回～第15回)

6. 成績評価方法：

感想レポート (30%) および最終レポート (70%) によって評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリント資料 (テキスト、スライド) を配付する。

参考書は以下の外、教室で紹介する。

中村三春『フィクションの機構』(1994、ひつじ書房)

中村三春『フィクションの機構2』 (2015、ひつじ書房)

中村三春『係争中の主体 漱石・太宰・賢治』(2006、翰林書房)

中村三春『花のフラクタル 20世紀日本前衛小説研究』(2012、翰林書房)

8. 授業時間外学習：

【予習】授業で取り上げる作家の作品を読んでおくこと。

【復習】作品を授業内容に照らして読み直し、理解を完全なものとするとともに、質問を感想レポートとして執筆し提出すること。

9. その他：

ホームページ

<http://projectm.s500.xrea.com/>

Twitter

@miharu_office

科目名：日本文芸形成論各論／ Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB52201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。

毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 『平家物語』の特質と概要
- 2 『平家物語』の成立と諸本
- 3 巻第一「祇園精舎」
- 4 『平家物語』における平忠盛
- 5 平清盛による「栄花」
- 6 巻第一「祇王」
- 7 巻第一「殿下乗合」
- 8 『平家物語』の「きかいが島」の記述
- 9 『平家物語』における平重盛
- 10 巻第四「橋合戦」
- 11 『平家物語』の福原遷都の記述
- 12 『平家物語』における平清盛

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート〔60%〕と、小レポート〔40%〕をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義（『平家物語』の研究）は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文芸形成論各論／ Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB62201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。

毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 『平家物語』における源頼朝と源義仲
- 2 『平家物語』における平家の人々の出京
- 3 『平家物語』の法住寺合戦の記述
- 4 巻第九「宇治川の先陣」
- 5 巻第九「木曾の最期」
- 6 『平家物語』の一の谷合戦の記述
- 7 『平家物語』における平重衡
- 8 『平家物語』における平維盛
- 9 『平家物語』の屋島合戦の記述
- 10 巻第十一「那須与一」
- 11 『平家物語』の壇の浦合戦の記述
- 12 『平家物語』における平宗盛
- 13 『平家物語』における建礼門院徳子
- 14 『平家物語』における源行家

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート〔60%〕と、小レポート〔40%〕をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義（『平家物語』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB51503, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』（巻一・二）を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（授業内容の説明、発表者及びローテーション決定）
2. 講義（『落窪物語』について、「継子物語」について）
3. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答

- (3) まとめ
- 13. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 14. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 15. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 6 セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB61504, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』（巻三・四）を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 貴族社会の構造や有職故実、時代の風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
2. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
3. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻四の輪読

- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 12. 巻四の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 13. 巻四の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 14. 自由発表
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 15. 自由発表
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（現代語訳、ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 5 セメスターから連続して履修すること。物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB53203, **科目ナンバリング：**LHM-LIT317J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として明治 20 年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治という時代
- 2) 明治文学史
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 前期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として明治 30 年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治 30 年代という時代
- 2) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 後期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第 5 セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、説話文学の考察の実践を通して理解して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

説話文学についての解説（第1回～第5回）

考察発表とそれにもとづく意見交換（第6回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習（説話文学の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB64203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、説話文学の考察の実践を通して理解して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

考察発表とそれにもとづく意見交換（第1回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習（説話文学の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。